



「女に許されてきたのは妬み、恨み、嫉み。勝ち目のない相手に持つ感情だけ」と上野さん



参院選について「立場の野党や党派を超えた広範な連携が必要」と本誌に語った元議員



太田弁護士は怒れる女子会に立ち上げから関わり世話人も務める

あの強行採決から3か月。一億総活躍、を謳い、夢つむぐ子育て支援、をぶち上げて、いくら甘言を並べ立てようが私たちは忘れない。安倍政権の横暴に女たちの怒りが爆発した!



「おつさん政治」を女たちは許しません

安本法、辺野古、原発再稼働... もう、いい加減にして



葉に全国に広がった『安本法に反対するママの会』も健在だ。同会@神奈川の武井由紀子弁護士は、参院選に向けた野党統一候補の擁立運動について報告した。ママの会をはじめ市民団体が中心となり候補者を擁立、それを野党がバックアップする選挙協力構想の動きがあるという。

食へざるをえない人たちがいる。一地域だけの話じゃない。そうした社会の理不尽さ、声を上げ、動き出した女性たちの歩みは今も止まらない。

安全保障関連法案の審議中に急降下した安倍政権の支持率は、各メディアの世論調査では軒並み回復傾向。沖繩・辺野古で座り込む住民の強制排除、原発再稼働と暴走し続ける一方、反対意見には無視を決め込んでいる。そんな独りよがりの「おつさん政治」には黙ってられない!

今日1日、ママや弁護士、地方議員、民主党の辻元清美衆院議員も駆けつけて1000人近い女性たちが東京・表参道に集結。昨年に続き2度目となる『怒れる大女子会☆2015』を開催した。「怒りは、対等の相手に向けて、自分の正当な権利が侵害されたときに抱くもの。女らしくない、などとして」女性に最も禁じられた感情だった」とビデオメッセージを寄せたのはNPO法人『ウイメンズアクションネットワーク』代表の上野千鶴子さん。これに貧困問題に詳しい作家・雨宮処凛さんは「非正規労働者の7割が女性。ブラックバイトや派遣先でひどい目に遭っても自己責任と思込ままれている」と大いにうなずく。

福島第一原発事故から4年半が過ぎた被災地では、アベノミクスの影響で広がった格差が深刻化。事故直後から取材を重ねる夫婦漫才コンビ『おしどり』のマコが明かす。「お金がなくて出荷制限がかかって市場には出せない作物を、農家の方に分けてもらい

「おしどり」のマコが明かす。「お金がなくて出荷制限がかかって市場には出せない作物を、農家の方に分けてもらい

「誰の子どもも殺させない」を合言す

「安倍さんが言う、女性の活躍」って、要は女性のおつさん化。女性閣僚たちも発想がおつさんでしょう。そうじゃないとエラくなれない。でも女性には女性の強さがあるからそれが出せるような政治であればいいしバックアップも必要だと思っています」おつさん政治が続く限り、私たちの怒りは静まらない!

